



公認心理師

実習演習担当教員及び  
実習指導者養成講習会

令和6年度厚生労働省事業

# 公認心理師実習演習担当教員及び 実習指導者養成講習会

# 2024

## レポート

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

CERTIFIED

PUBLIC

PSYCHO

LOGIST

# もくじ

はじめに .....	1
1 講習会の概要 .....	2
2 講習会の申し込み状況 .....	6
3 受講者アンケートについて .....	10
4 グループワークシートを振り返って .....	16
5 2年間で振り返って/今後に向けて .....	22
おわりに .....	26
参考資料 .....	27



## はじめに

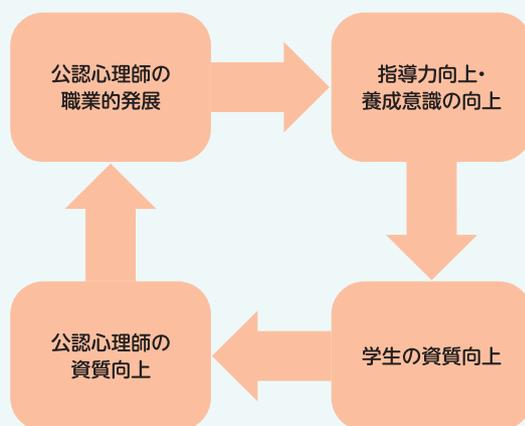
令和6年(2024年)9月～12月にかけて、令和6年度の公認心理師の実習演習指導に関する養成講習会が開催されました。

2回目の講習会となった令和6年度は、初年度のアンケート結果をふまえて運営方法や講習会科目の内容等のアップデートを図っています。いただいた意見をもとに企画委員の先生方と講師の先生方で協議や工夫を重ねた結果、本当にたくさんの先生方から肯定的なフィードバックをいただくことができ、ねらい通りの成果が得られたことが示されました。参加されている先生方とともに学び、作る講習会にしたいという運営スタッフの思いは、一歩ずつ、形になってきているように感じています。

令和5年度から変わらずに大事にしていることもあります。それは、「公認心理師の各種関連団体の先生方、異なるバックグラウンドを持つ先生方と、立場や領域や流派などを超えて、一緒に講習会作りあげること」、「実習生を送り出す教員の先生方と、現場で受け入れる指導者の先生方がともに学ぶ場にすること」という2つの運営コンセプトです。

2年間の講習会を通して、垣根を超えた交流から生まれる学びやエンパワメントの大きさを目の当たりにしています。講習会が進むにつれて、現地でもオンラインでも参加者の雰囲気の変化し、養成に携わることへの役割意識や、個々の活動が心理全体の発展へとつながっていくことへの希望が共有されていくさまは、毎回みごとなものでした。

これから、講習会で実習・演習指導に関する知識やスキルを高めた先生方がそれぞれの持ち場でともに学生の養成に携わっていくことで、質の高い学生が現場に輩出されていくことでしょう。そして、こうした積み重ねが、公認心理師全体の資質向上や職業的発展につながっていくことが期待されています。この講習会レポートが、後進の育成やこれからの公認心理師の在り方を考える上で参考になれば幸いです。



国立精神・神経医療研究センター病院 臨床心理部  
臨床心理室長 今村扶美

# 1 CHAPTER

## 講習会の概要



CERTIFIED P C F

CHAPTER

1

講習会の  
概要

# 実習演習担当教員 及び 実習指導者 養成講習会について

## 目的・対象

本講習会の目的は、公認心理師の実習演習指導を行う大学・大学院等の教員(以下、担当教員)や、実習施設側として実習生を受け入れる現場の指導者(以下、実習指導者)の養成です。

本講習会の対象は、公認心理師の資格を取得しており、心理支援の業務に5年以上従事している方や、教員として実習演習の指導経験が一定年数ある方です。

養成における教員・指導者としての役割の共通認識をはかる

### 養成講習会の目指すところ

学部生・院生それぞれの到達目標を共有し、指導の均一化をはかる

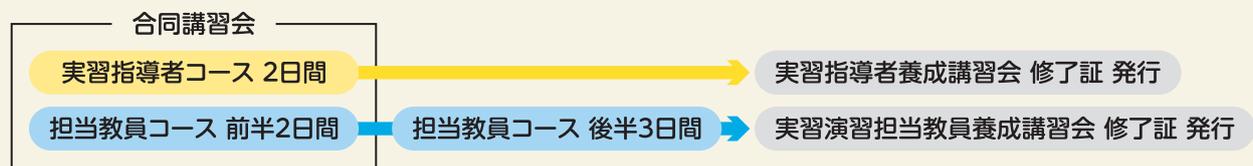
後進育成の意識醸成と実習演習に携わる人材を増やす

この講習会では、実習・演習指導に関する知識やスキルを身につけ、実習生を送り出す側、受け入れる側の両視点を交わしながら、よりよい指導ができるようになることを目的としています。公認心理師を養成するための指導力が向上・均一化し、後進育成のモチベーションを互いに高め、実習演習の裾野を広げていくことを目指しています。

## 各コースの日程

講習会は、2024年9月～12月にかけて、東京、愛知、大阪にて開催されました。厚生労働省からの通知で示された実施要領に基づいて、担当教員コースでは、前半2日間(6科目;計14時間)+後半3日間(12科目;計34時間)の計5日間の受講が、実習指導者コースでは、2日間(6科目;計14時間)の受講が必要となります\*。 ※令和7年2月末日現在

本講習会では、担当教員コースの前半2日間と、実習指導者コースの2日間は合同講習会の形式で行いました。



## 開催形式

開催形式については、合同講習会(担当教員コース前半2日間、実習指導者コース2日間)、および担当教員コース後半3日間の一部を、現地参加とオンライン参加を選択できるハイブリッド形式で行いました。

	9月開催	11月開催	12月開催
担当教員コース 前半2日間 実習指導者コース 2日間	@東京【ハイブリッド】	@大阪【ハイブリッド】	@愛知【ハイブリッド】
担当教員コース 後半3日間		オンライン	New! @東京【ハイブリッド】

## 開催の工夫点

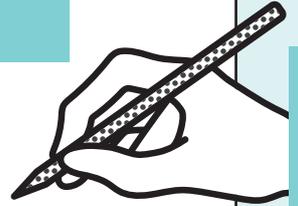
前年度に引き続き、合同講習会のグループワークにおいて、担当教員と実習指導者がまんべんなく混在するようにしたこと、また開催日によってグループメンバーを新たに入れ替えて行ったこと、が挙げられます。講習会を通じて、さまざまな領域、立場、経験年数の参加者同士が意見を交わしながら、公認心理師養成のための連帯感や共通意識の醸成につなげるという講習会の目的に沿った工夫点です。

また、法定講習会としての枠組みを重視しながらも、受講者、講師の皆様の声に耳を傾け、公認心理師全体でより良い講習会を作り上げていく柔軟な姿勢も大切にしています。

## 講習会の様子



## コラム



## 学びを進化させる — 令和6年のアップデート・ポイント —

令和5年度の講習会で得た運営経験や、受講者の皆様からのアンケート結果をもとに、企画委員や講師の先生方と協議を重ね、令和6年度の講習会のアップデートに取り組みました。変更したポイントは主に3つです。

### 1. 現地・オンライン受講枠の増加

前年度は想定を超える申し込みがあり、多くの方が抽選により受講ができませんでした。そこで今年度は、少人数でのグループ編成が可能な適正人数を考慮しつつ、できるだけ多くの希望者が受講できるよう、現地およびオンライン受講の定員数を増やしました。

### 2. 教員のみ科目の現地開催

アンケート結果から、オンラインよりも現地での対面受講の方がより満足度が高いことが明らかになりました。また、担当教員・実習指導者の合同開催科目だけでなく、担当教員のみ科目でも対面形式を希望する声が多く寄せられました。これらを踏まえ、今年度は担当教員のみ科目の一部日程でも現地受講とオンライン受講のハイブリッド形式を導入しました。

### 3. 講義スライド・演習内容のアップデート

講義の質をさらに高めるため、アンケート結果をもとに講義スライドや演習内容の見直しを行いました。例えば、経験年数が浅い受講者が自信を持てにくかった科目では、知識の伝達により重点を置き、講義時間を再配分しました。また、講師自身が受講者として講習会に参加した体験を踏まえ、科目間で重複する講義内容の整理や演習中の教示の工夫、統一感のあるスライドの作成などに取り組みました。

このように、令和6年度の講習会は、前年度の受講者からのフィードバックや受講者として参加した講師たちの体験をもとに形を変え、新たな一歩を踏み出しました。演習・実習を通じて未来の公認心理師が育っていくのと同じように、この講習会もまた、多くの公認心理師の熱意と協力によって育てられ、年々進化を続けていきます。

#### 講習会カリキュラム・実施方法に関するPDCA



# 2 CHAPTER

## 講習会の 申し込み状況



講習会の  
申し込み状況

本講習会は、多くの方々からお申し込みを頂きました。どのような方が参加を希望されたのか、本講習会に申し込まれた方の総数や内訳についてまとめた結果をご紹介します。

※本章において、「実習指導者」は実習指導者コース申込者、「担当教員」は担当教員コース申込者を指します。

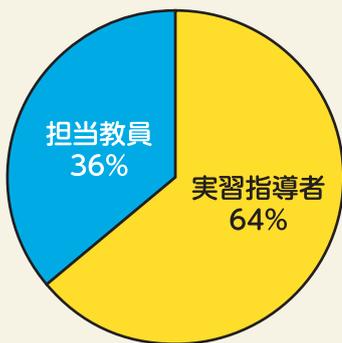
## 申込者内訳のまとめ

- 両コースで合わせて**2,684名**の方からお申し込みをいただきました。
- 昨年同様、**申込者の約7割程度が既に実習・演習指導を担当している方**でした。
- 各コース別の属性をみると、「担当教員」の方が年齢や指導経験年数が高く、男性が多く、現在実習演習指導を担当している割合が高いという結果でした。

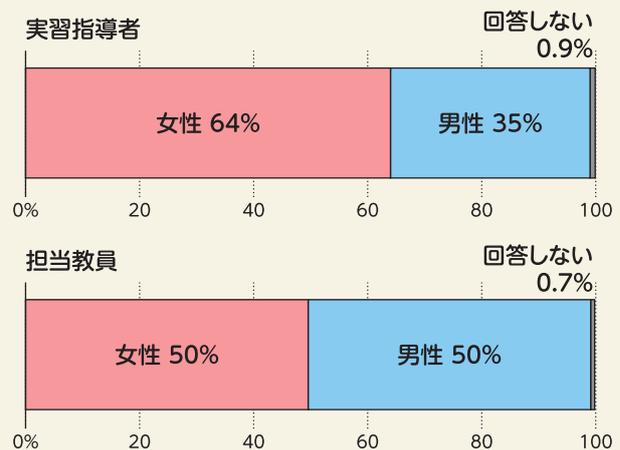
## 1. 実習指導者と担当教員の内訳

各コース別 申込者総数

- 実習指導者コース ..... 1,713名(2,073名)
  - 担当教員コース ..... 971名(1,368名)
- 総計 2,684名(3,405名) ※( )は昨年度



各コース別 申込者総数(男女別)

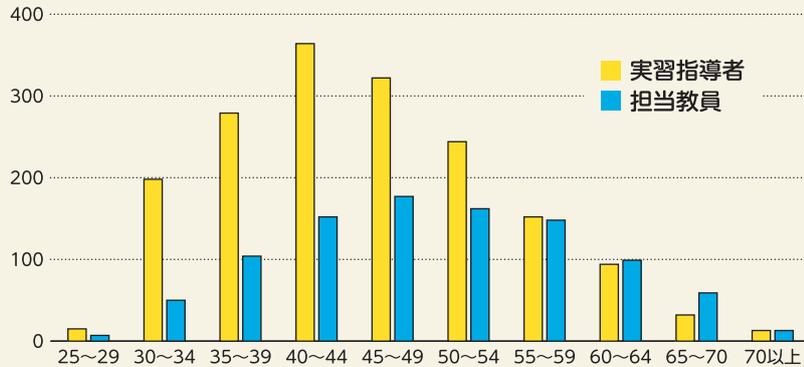


- 「実習指導者」は「担当教員」より約1.7倍多く申し込みがありました。
- 前年度も「実習指導者」の方が多く申し込まれており、現場で指導する実習指導者の方からのニーズの高さがうかがわれています。
- 公認心理師全体の男女比は女性73.3%、男性25.3%ですが<sup>(\*)</sup>、それと比べると指導者を目指す本講習会の受講者は男性の比率が高くなっています。特に「担当教員」はその傾向が顕著でした。

(※参考:「令和5年度公認心理師活動状況等調査」(一般社団法人日本心理研修センター)、女性73.3%、男性25.3%、回答しない1.3%)

## 2. 申込者の年齢層

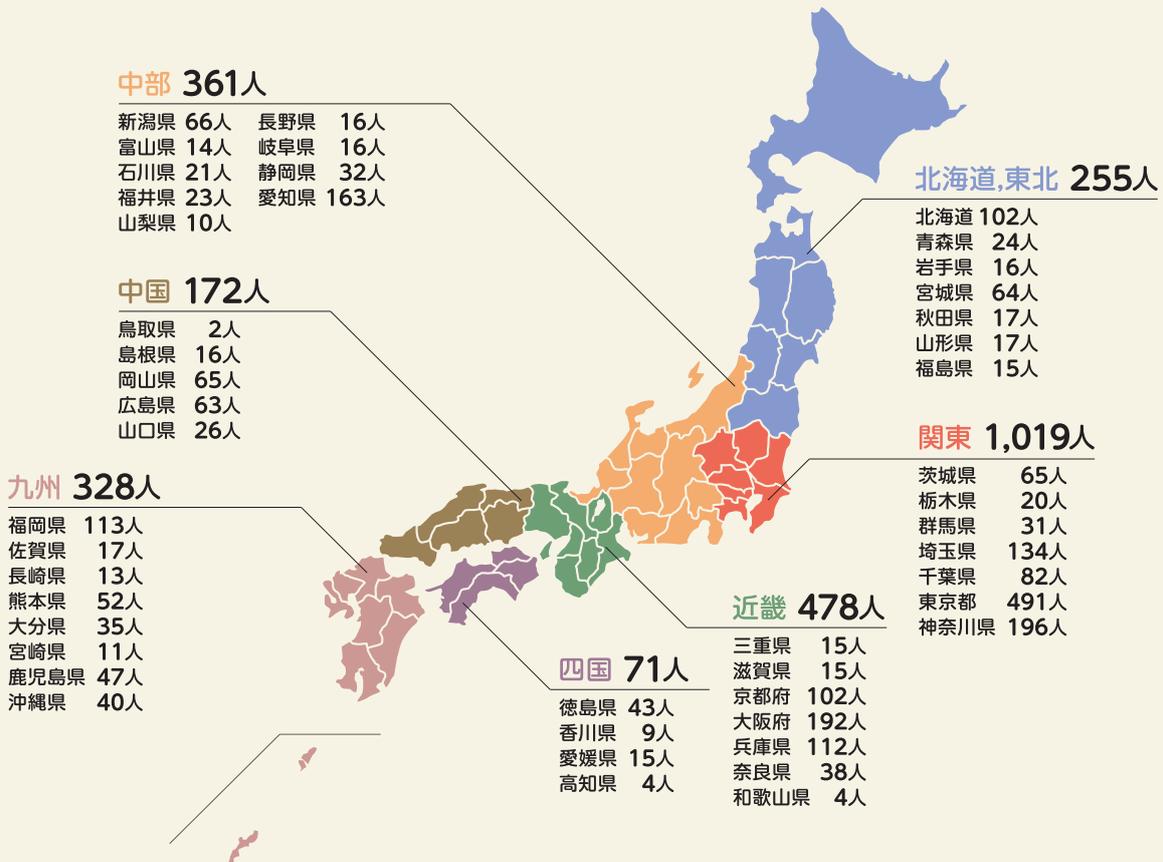
各コース別 申込者年齢層



- 「実習指導者」は30～40代の中堅層が中心で、40代前半の方からの申込が最も多くなっていました。
- 「担当教員」は40～50代の中堅～ベテラン層が中心で、40代後半の方からの申込が最も多くなっていました。
- 各コースの年齢層の傾向は、前年度と同様の結果でした。

## 3. 都道府県別の申込者数

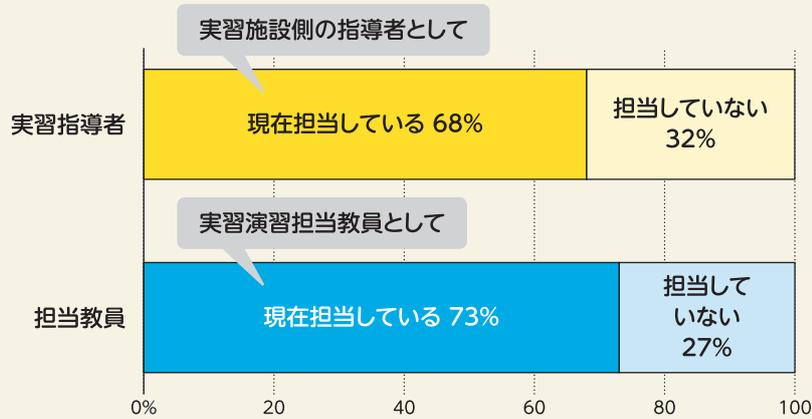
講習会申込者 都道府県別／エリア別 人数



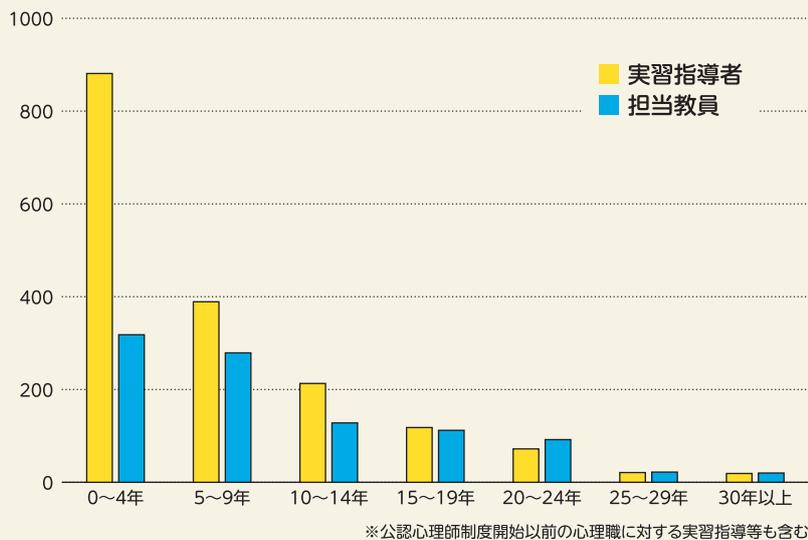
- 首都圏を中心としながらも全国各地からお申込みがありました。
- 都道府県別では、前年度と同様に、東京都、神奈川県、大阪府、愛知県の順にお申込みが多くありました。

## 4. 各コース別 実習・演習指導担当の有無／実習・演習指導経験年数

## 各コース別 実習・演習指導の担当について



## 各コース別 心理職への実習・演習指導経験年数



- 全体で約7割の方が、申し込み時点で実習・演習指導を担当していました。
- 実習・演習の指導経験年数は、「10年未満」の方が約7割を占めていました。特に、「実習指導者」は約5割の方が「0～4年(5年未満)」でした。
- 前年度と比較すると、実習・演習指導を「担当していない」方の割合がやや増えていました。現段階で担当していなくとも、実習・演習指導の予定がある、関心がある方は一定におられるようです。

# 3

CHAPTER

## 受講者アンケートについて



CERTIFIED PUBLIC PSYCHOLOGIST

本講習会では、講習会の受講前後にアンケートを実施しました。講習会の満足度、科目がねらいとする到達目標に関する自信の程度、講習会の内容が適切であったと思うかなどを尋ねています。ここでは、受講者アンケートの一部を抜粋してご紹介します。

※本章において、「実習指導者」は実習指導者養成講習会受講者、「担当教員」は実習演習担当教員養成講習会受講者を指します。

## 受講者アンケート結果のまとめ

- **回収率** アンケートの回収率は93%と、非常に多くの受講者からご回答を頂きました。
- **満足度** 全体の9割以上の方から肯定的な評価が得られました。
- **自信の変化** 各科目に対する理解や対応する自信について、本講習会の受講前後で有意な上昇がみられました。
- **内容の適切さ** 講習科目について、カリキュラムの到達目標に即した適切な内容であるとの肯定的評価が9割以上でした。
- **参加形態の影響** 「満足度」「自信の変化」「内容の適切さ」はいずれも前年度と比べてさらに肯定的な結果でした。前年度の取り組みを踏まえ、講義や演習内容のアップデートを行ったことが、肯定的評価の上昇に寄与した可能性が考えられました。

### 1. 講習会の受講者数／アンケート回収率

本講習会には2,684名の申し込みがあり、応募者多数による抽選の結果、1,192名の方が参加予定となりました。実際の講習会には1,125名の方が参加され、受講者全員にアンケートの協力をお願いしました。

アンケート回収率:93%

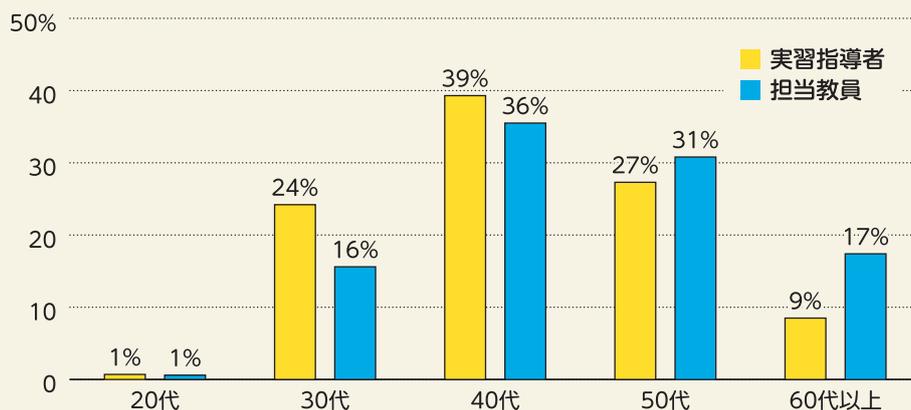
	実習指導者 コース	実習演習担当 教員 コース	合計
受講者総数 (キャンセル等を除く)	575名	550名	1,125名
受講者アンケート 有効回答数 (受講前後共に回答)	550名	493名	1,043名

- 受講前後アンケート回収率は93%と、非常に多くの方からご回答いただきました。

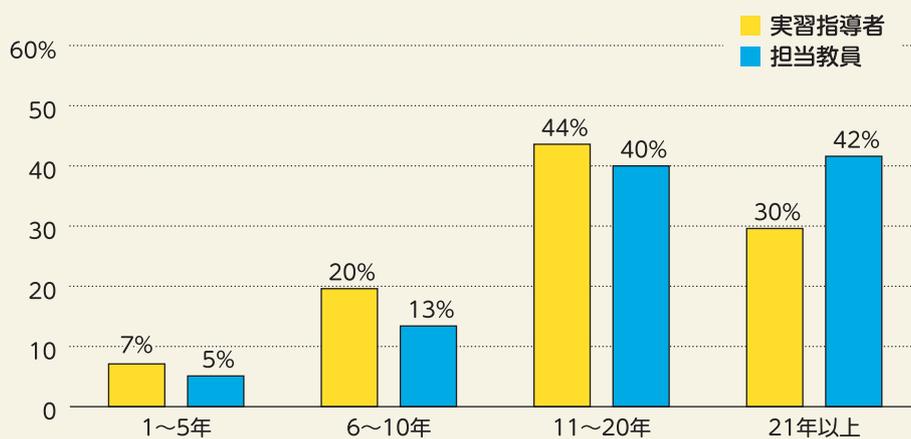
## 2. 受講者の属性

### ① 年齢層と臨床経験年数

#### 年齢層



#### 心理職としての臨床経験年数



- 両コースともに、40代の方が最も多く、次いで50代の方が多く結果でした。
- 各コース別にみると、「担当教員」の方が年齢層・臨床経験ともに高い傾向にありました。この傾向は前年度と大きくは変わらない結果でした。

## ② 実習・演習指導経験の有無と経験年数

- 公認心理師の養成に関わる、「学部実習(心理実習)」「大学院実習(心理実践実習)」「心理演習」の指導経験の有無・経験年数を尋ねました。結果は各コースの受講者別に整理しています。
- 「担当教員」では、各実習について経験の有無の程度に大きな差はありませんが、「実習指導者」では「学部実習(心理実習)」の未経験者が約5割と多いことがうかがわれました。
- 前年度と比較すると、全ての項目で「経験なし」の割合が増えていました。特に、「学部実習(心理実習)」は前年度と比べ、「実習指導者」「担当教員」ともに未経験者の割合が10%高い結果でした。

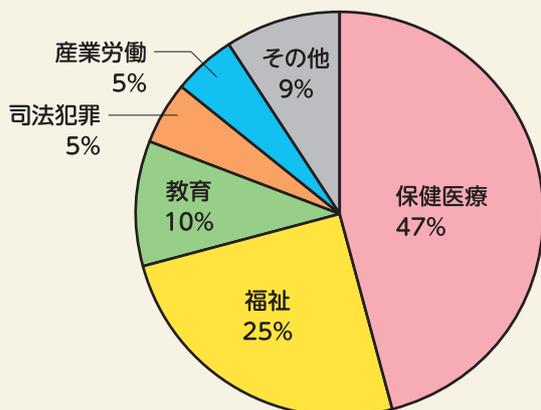
### 各講習会別 公認心理師の実習等指導経験の有無と経験年数

講習会名	指導経験の有無	経験年数							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	
実習指導者コース 受講者 実習指導者としての 指導経験/年数	学部実習 (心理実習)	経験無し 53%	10%	8%	10%	6%	7%	11%	6%
	大学院実習 (心理実践実習)	経験無し 37%	11%	10%	8%	4%	11%	4%	16%
担当教員コース 受講者 担当教員としての 指導経験/年数	心理演習	経験無し 38%	8%	8%	8%	7%	11%	6%	14%
	学部実習 (心理実習)	経験無し 37%	8%	6%	10%	9%	11%	5%	14%
	大学院実習 (心理実践実習)	経験無し 36%	7%	5%	6%	6%	11%	7%	23%

## ③ 実習指導者の所属機関

### 実習指導者コース受講者

#### 実習指導している/指導予定である あなたの所属機関



- 「実習指導者」に対し、実習指導をしている/予定している所属機関について尋ねました。
- 前年度同様、「保健医療」が最も高い結果でした。ただし、前年度よりも「保健医療」の割合が減り、「福祉」の割合が増えています。

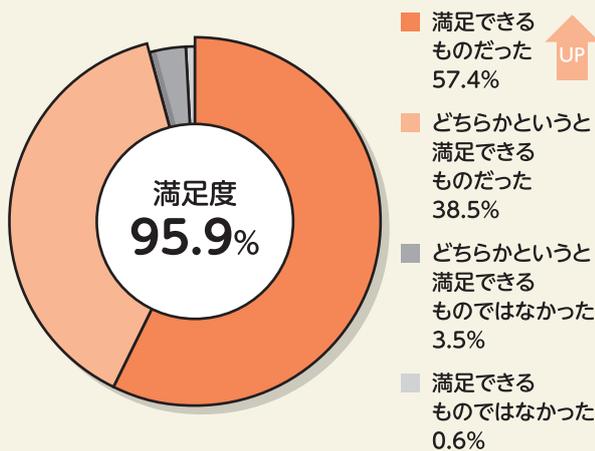
### 3. アンケート結果

#### ①満足度

- 講習会の満足度を測るため、「満足度」「業務への活用」「養成にかかわる意識づけの高まり」「他の公認心理師に薦めたいか」を尋ねるアンケートを実施しました。
- 結果: **全体の9割以上の方から肯定的なフィードバック**が得られました。
- 前年度も9割以上の方から肯定的なフィードバックをいただきましたが、今年度はさらに高い結果でした。内訳としても、ほとんどの項目でより高く評価する回答の割合(例:「満足できるものだった」)が上昇しており(↑)、多くの方から高い満足度を得られたことがうかがわれました。

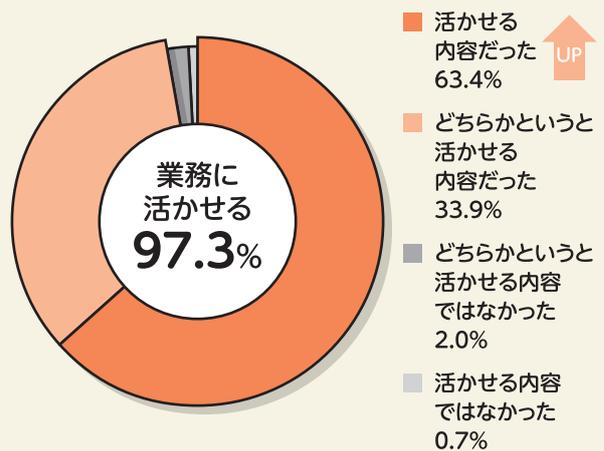
#### 満足度

Q. 講習会の内容は、実習演習担当教員・実習指導者の養成講習会として満足できるものでしたか



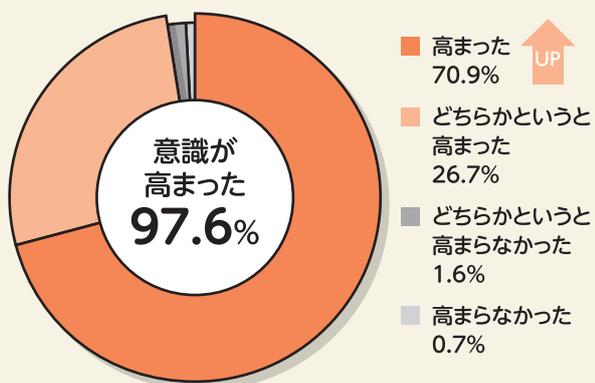
#### 業務への活用

Q. 今後のご自身の実習演習担当教員・実習指導者としての業務に活かせる内容でしたか



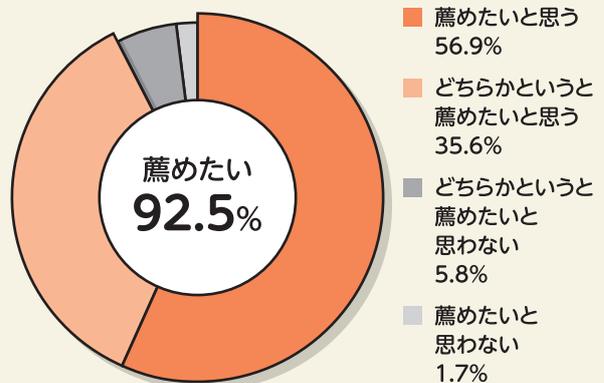
#### 意識づけの高まり

Q. 講習会を受講して、学生の育成・養成にかかわることへの意識づけが高まりましたか



#### 薦めたいか

Q. 講習会の受講を他の公認心理師にも薦めたいと思いますか

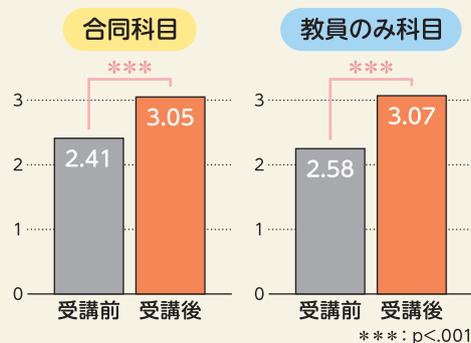


※上記は「満足できるものだった」「どちらかという満足できるものだった」など、肯定的な評価を合算した数値

## ② 受講前後の自信の変化

- 各科目の到達目標に対する自信の程度が、受講前後で変化するか調べました。
- 質問項目は、実習指導者・担当教員が合同で受講する科目(以下、「合同開催科目」)に関する13項目と、担当教員のみが受講する科目(以下、「教員のみ科目」)に関する11項目の計24項目で構成されています。
- 結果: 「合同開催科目」「教員のみ科目」ともに、**到達目標に対する自信の程度は受講前後で有意に上昇**していました。
- 前年度と比較すると、受講前の自信はより低い数値であるにも関わらず、受講後の自信はより高い数値でした。今年度は指導経験の浅い方が増えたため、受講前の自信が低くなったのかもしれませんが、今回の結果からは、そうした指導経験の浅い方にとっても意義のある、自信が高まる講習会であったことが考えられました。

### 科目別: 受講前後の「自信」の比較



#### 〈質問内容〉

「各科目の到達目標に関する以下の項目について、ご自身が対応できると思う自信の程度を教えてください。受講いただいた科目それぞれについてお答えください」  
項目例) 「心理支援の現場で求められる公認心理師の責務や資質を理解し、そのために実習・演習を通じて学生が身につけるべき内容・到達目標を理解している」

#### 〈回答形式〉

「十分に自信がある」=4点、「どちらかという自信がある」=3点、「どちらかという自信がない」=2点、「自信がない」=1点、として得点化。

#### 〈回答者〉

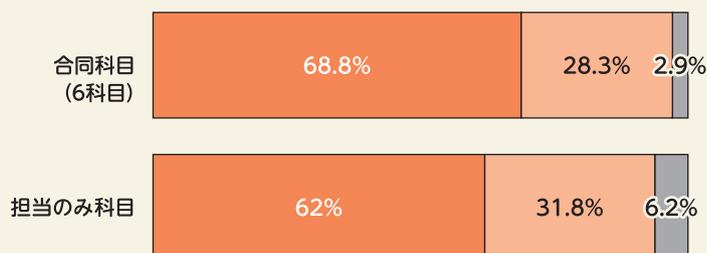
- 「合同開催科目」: 「実習指導者」・「担当教員」ともに回答
- 「教員のみ科目」: 「担当教員」のみが回答

## ③ 講習内容の適切さ

- 本講習会の各科目が、カリキュラムの到達目標に即した適切な内容であったかどうかを尋ねました。
- 結果: 「合同開催科目」「教員のみ科目」ともに、「**適切な内容だった**」「**どちらかと言うと適切な内容だった**」を合わせた**肯定的な評価が9割**を占めていました。
- 前年度との比較においても、**肯定的評価の割合は上昇**していました。
- 前年度のアンケート結果をふまえ、講義スライドや演習内容のアップデートを行ったことが、肯定的評価の上昇に寄与した可能性が考えられました。

### 科目別: 到達目標に即した適切な内容だったか

- 適切な内容だった
- どちらかと言うと適切な内容だった
- どちらかという適切な内容ではなかった／適切な内容ではなかった



#### 〈質問内容〉

「講習会で受講頂いた科目の内容は、各科目の到達目標に即した適切な内容になっていたと思いますか。受講いただいた科目について、それぞれお答えください」

#### 〈回答形式〉

合同科目 (6科目)、教員のみ科目 (6科目) それぞれの科目について、「適切な内容だった」「どちらかという適切な内容だった」「どちらかという適切な内容ではなかった」「適切な内容ではなかった」の4択で回答

#### 〈回答者〉

- 「合同開催科目」: 「実習指導者」・「担当教員」ともに回答
- 「教員のみ科目」: 「担当教員」のみが回答

※「合同開催科目」: 「実習指導者コース」および「担当教員コース(前半日程)」の6科目 「教員のみ科目」: 「担当教員コース(後半日程)」の6科目

# 4

CHAPTER

## グループワークを 振り返って



CERTIFIED PUBLIC

グループワークを  
振り返って

本講習会では、座学だけではなく、担当教員と実習指導者を組み合わせた小グループでグループワークを多く行いました。ワークシートに書き留められた内容から、参加者の率直な意見や問題意識、受講を通じて得られた知見や心境の変化などが感じ取られました。ここでは、その一部をご紹介します。

## 1. 講習会のはじまりのワーク（実習演習の課題／講習会で学びたいこと）

- 合同開催科目の最初には、**実習演習に関わる際に課題と感じていることや、それを踏まえて講習会では何を学びたいか**について話し合いました。話し合った内容には、以下の共通する意見がみられました。

## 課題① 適切な実習演習ができているかわからない



公認心理師法に基づく制度上の設計にて、改めて学び直したい



現場で何を学ぶのか、どこまでを経験させるかがイメージできていない

## 課題② 教員・指導者の連携方法



忙しい現場の先生にいろいろお願いするのは申し訳ない



成績に影響すると思うと、実習生のありのままの様子を伝えるにくい

## 学びたいこと① よりよい学生指導の行い方



配慮が必要な生徒を実習に送り出す際にできることは何か



実習生が主体的に学ぶ姿勢をもてるようになるにはどうしたらいいか

## 学びたいこと② 他機関・他施設での取り組みについて



自分の専門分野以外の現場でどのような実習が行われているか把握したい



大学では何を教えているかを知った上で実習プログラムを作成したい

## 2. 講習会のまとめのワーク①（明日からの指導にどう活かすか）

- 合同開催科目のまとめのワークでは、講習会を通して得た学びについて、それを踏まえて明日からの指導にどう活かすかというテーマで話し合いました。話し合われた内容から、講習会の前後で、後進の養成に対する重要性の認識や、養成に携わる意欲が大きく変化したことがわかりました。

### 実習・演習の見直し・バージョンアップをしたい



現場の先生の生の声を聞き、学生の事前学習に何が必要か考え直せた



大学側と協働し自己紹介シート実習のしおりを刷新しようと思う

### 教員・指導者の連携を高めたい



これまでは遠慮が多かったが、顔の見える関係を作り率直に話し合いたい



巡回指導の際には、大変な思いをして送り出してくれる大学の先生を労いたい

### 学生への指導方法や職場内での後輩指導を工夫したい



これからは、教えるだけでなく学生の思いを引き出し、自発性も育てたい



職場の後輩指導が後回しになっていた。学生だけではなく身近な育成にも目を向けたい

### 養成・育成を通じて自分自身も学び成長したい



学生と共に学ぶ姿勢を持ち、教員として公認心理師として成長していきたい



資格取得後5年。初めて育成者の自覚が芽生えた。良いモデルになりたい

### 3. 講習会のまとめのワーク②（公認心理師全体の発展のために何ができるか）

- 質の高い公認心理師の育成と専門職としての職業的発展は、一つの延長線上にあるものです。そこで講義の終わりには、**公認心理師全体の発展のために、それぞれが自分の立場で取り組めること**についても話し合いました。個人としてできることだけでなく、業界全体で取り組むべきことについても意見を交わし、業界の未来をより高い視点から見つめ直す貴重な機会となりました。

#### 後進の養成・育成により前向きに関わりたい



- 受け入れ先の熱心さに触れて学生を指導する気持ちを新たにした
- 今まで、後進の育成と業界の発展のつながりを考えたことがなかった



- 公認心理師の育成の一端を担える喜びを感じた
- 実習に携わることは、職責と未来への投資だと考えを改めた

#### 多職種に対する発信力と積極性を高めていく



- 心理職の発展のために、まずは私たち世代から心理職をアピールしたい
- 心理職が求められるような日々の働きをせねば



- 実習を受け入れのために組織内で心理職について知ってもらう必要がある
- 業界を背負っていく若手が働きやすい職場を作っていきたい

#### 公認心理師同士の交流・連携・学び合いの機会を持つ



- 心理師が領域を超えて情報交換し、交流を深める機会が必要
- 他校と情報交換をする場があると演習の質も上がるのでは



- 最新の情報をキャッチするためには、心理師同士の横のつながりが必要
- 地域内でも実習の情報交換ができる場があると良い

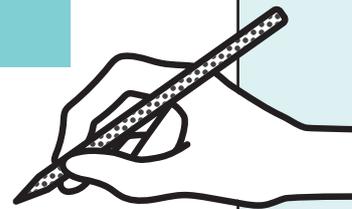
#### エビデンスの創出と流派や立場を超えた団結力を高める



- 世の信頼を得るには心理の有効性を裏付けるエビデンスの構築が必要
- 公認心理師が根付くためには業界全体が協同し声を上げていかなくては



- 心理業界が一枚岩でないと今後の発展は難しい
- まとまりのなさを克服するためには個々の心理師の意識改革が必要



## 講習会を担当した講師の声

令和5年・6年度の講習会は、所属団体や専門領域を超えた総勢33名の講師にご協力をいただきました。先生方は、社会に貢献できる公認心理師を養成するという大きな使命感のもと、ご自身の知識や経験を言葉で紡ぎ、受講者の一人として参加した視点も織り交ぜながら、この講習会の核となる講義を一から創り上げてくださいました。

以下に、2年間講師を担当された先生方の声をご紹介します。講師としての経験から生まれた想いについて感じ取っていただければ幸いです。



関連団体の先生方と協力し、一つの学びの場を作り上げる取り組みに参加できて、とてもよかったです。講習会に携わることで感じた熱意は、学校に戻ってから生徒たちに伝えています。「**将来、みんなも領域を超えて仲間を作り、新たな公認心理師を育ててほしい**」。



普段、自分の視点は目の前の生徒やクライアントを中心にしていますが、講師として参加し、他の先生方と意見交換をしていると、**公認心理師全体や制度の発展について何ができるかという視野が広がってきました**。そのようなことは偉い先生や先輩方をお願いすることだと思っていましたが、**少しずつ私たちの世代が考え、担っていかなければならないのだと、意識が変わったように**感じています。



講師としても受講者としても心地よく参加でき、みんなで新しい公認心理師を育てていこうという一体感を感じることができる、意義深い会でした。知識を得ることはもちろん重要ですが、異なる領域で指導を考えている方々と出会い、横のつながりを築けることも大きな魅力でした。**つながりを大切にする**ことで、**共に創り上げるという意気込みを共有できる、こういったことこそ講師として伝えていきたい**と思いました。



講師である私たちも、どこまでを目指して養成していくべきか、試行錯誤を重ねている最中です。国家資格化されたので、どこでも同じ内容で指導できるシステムを作るのは大事なことです。でも**私たちが学生時代に学んで心に残っているのは、テキストには載っていない先生の経験談**だったりしますよね。そういったことを公認心理師の養成に乗せていくにはどうしたらよいか、考えを巡らせています。

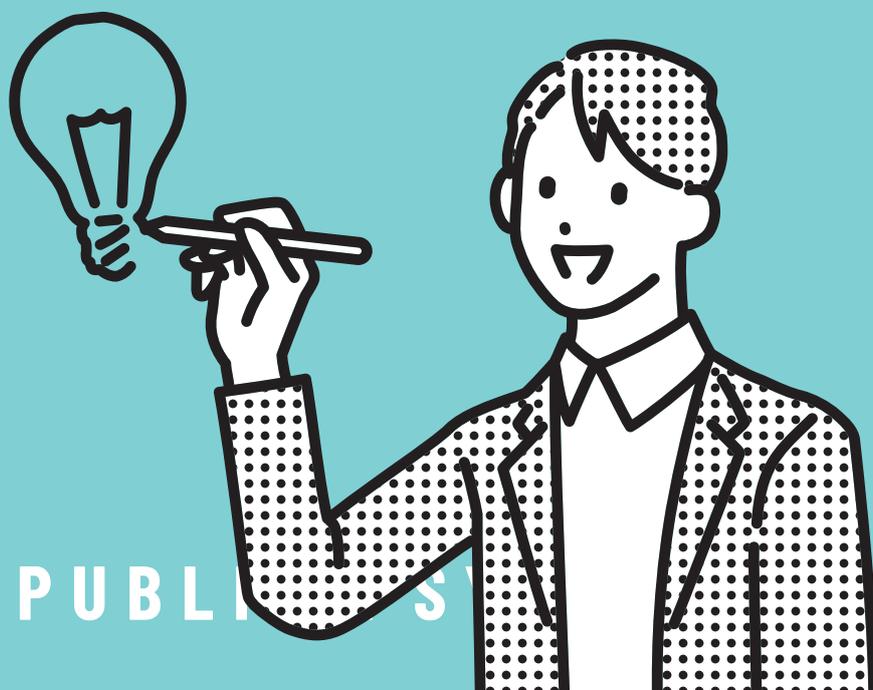


# 5

CHAPTER

---

2年間を振り返って/  
今後に向けて



CERTIFIED PUBLIC ACCOUNTANT

## CHAPTER

# 5

### 2年間で振り返って/ 今後に向けて

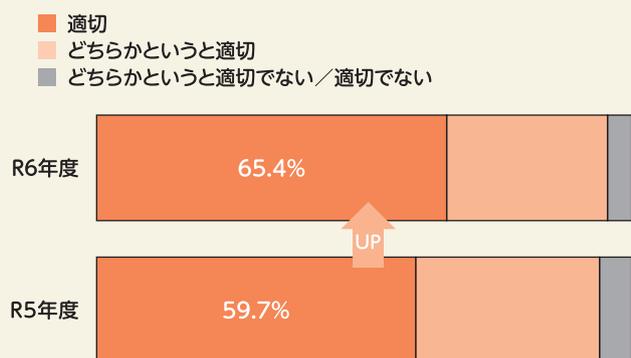
2年間の実施を通じて、明らかになった課題や、解決のために行った取り組みをご紹介します。今回は、制度改正も含めて、関係者全員で協力し対応しました。今後、公認心理師に関する制度の発展に向けて、個人や団体が働きかける際のヒントになれば幸いです。

## わたしたちがずっと大切にしていること／新たにわかったこと

令和5・6年度を通して、わたしたちは一丸となって、受講者の養成への意識づけや自信の向上に資する有益な講習会にするために、内容や実施方法を試行錯誤し、アップデートしてきました。結果として、受講者アンケートでは、令和6年度は到達目標に即した内容にさらに整理されたという意見が増え、満足度も高く、全体的に好評でした。

一方、令和4年度の調査事業において講習会のカリキュラム案を作成した時点では、期間や予算等の制限により、講習会全体を十分に評価するのが困難でした。令和5年度の講習会事業において初めて全体を実施したことになりますが、あらためて時間数や情報量に関する改善点があることが見えてきました。講師陣が最大限できる工夫をしたものの、現行の制度上では解決できない部分もありました。

### Q. 到達目標に即した適切な内容だったか



### 受講生や講師の声



受講生

科目によっては基礎的な情報も多く含まれているので、情報量や学習ポイントをもう少し絞ってほしい



講師

時間数が足りない科目もあり、受講生に有益な情報をきちんと届けるためには、講習会全体の整理が必要

## 課題への対応として行ったこと

そこで、令和6年度では、公認心理師関係団体\*の代表者で構成される企画委員会と講師陣が協力して、制度面の見直しも含めて、よりよい養成講習会のあり方を検討することにしました。到達目標に対して詳細過ぎる資料や重複している内容を整理したり、不足していた部分を補ったりすることで、全体の情報量を適正化し、学習効果の向上と講習会の質の担保を目指しました。

### 企画委員会や講師からの意見

- ごく基本的な公認心理師に関する知識や、他科目と重複している部分の説明等は簡略化することで、受講生の負担度の軽減・学習効果の向上が見込めるのでは。
- 説明のポイントを絞り、受講生が注意を向ける部分を明確化し、理解度を高めてはどうか。本来、この科目の適正時間はもっと少ないのではないかと。
- 到達目標や扱う科目内容の分量に対し時間数が不足しているため、情報が詰め込まれている状況。もう少し科目の時間数に余裕があるとよいのでは。
- 教員と指導者の協働は我々が大事にしてきた点であり、受講者にも同様の意見が多い。公認心理師全体が同一の方向性を持って養成に取り組めるようにするためにも、講習会の制度に組み込めるとよいのでは。

## 制度改正に向けて働きかけたこと

企画委員会で検討を重ね、こうした課題の根拠を整理し、改善策をまとめました。具体的には、科目ごとの適切な時間数の案を作成したり、教員と指導者の協働を大切にすることや、講習会の定期的なアップデート体制を確保することなどです。

そして、国立精神・神経医療研究センター及び公認心理師関係団体\*の連名で、厚生労働省公認心理師制度推進室あてに要望書として提出し、制度改正にむけた提言を行いました。

### 要望書の内容

- 講習会の科目の時間数の改正(改正の具体案付き)
- 実習演習担当教員と実習指導者の意見交換の機会の創出
- 講習会の中長期的見直しに向けた検討の実施

要望書を踏まえ、科目の時間数に係る基準告示や、講習会の運用方法に係る通知等は、令和7年4月1日に改正予定とされています(令和7年2月末日現在)。

## 今後の展望

このように、実際に養成講習会を実施した結果を踏まえ、講習会の内容や実施方法がアップデートされ、さらに必要に応じてカリキュラム等制度の見直しがなされていくことは、公認心理師の資質向上や職業的発展に向けて重要な動きといえます。

そのためには、実施結果や受講者の意見といったデータを蓄積し、課題の洗い出しや、対応方針を検討することなどに、公認心理師関係団体\*が一丸となって取り組み、明瞭な政策提言を行うことが必要となります。

今回の検討や提言は、公認心理師関係団体\*が一致団結して協働したことで実現しました。ご協力いただいた団体の皆さまには深く感謝申し上げますとともに、より一層緊密な連携を築いていけますよう、よろしくお願い申し上げます。



## おわりに

第2回目の講習会は、第1回目と同様に、本当にたくさんの方々のお力添えにより実施することができました。まずは、日本公認心理師協会、公認心理師の会、日本公認心理師養成機関連盟、公認心理師養成大学教員連絡協議会、日本心理臨床学会、日本心理学会の皆さまに心より感謝申し上げます。それぞれの団体様が企画委員の先生をご推薦下さったおかげで、さまざまな立場や視点の意見を反映することができました。そして何よりも、心理の関連団体の先生方が一堂に会して企画運営を行ってきたということそのものが大きな力となり、これだけの高い評価や賛同につながったのだと思います。

また、今回の講習会では、初年度の結果を踏まえて運営方法や講習科目の内容等に様々な工夫を凝らしました。いただいたフィードバックからは、「よりよい講習会を」「新たな公認心理師を育てることの大事さを皆で考えたい」という講師の先生方の熱意が現地・オンラインそれぞれの会場にしっかりと伝わった様子がうかがえました。改めて、実施しながら改善を重ねていくことの大事さを実感しています。講師の先生におかれましては、お忙しい中で細やかなご対応いただき、本当にどうもありがとうございます。

今回ご参加くださった1125名の公認心理師の先生方にもお礼を申し上げます。講習会の場やアンケート等を通じて寄せてくださったご意見は、今後の講習会を作り上げていくにあたってのかけがえない財産となります。最後に、講習会の運営にずっと伴走し、有形無形のサポートをしてくださった株式会社浜銀総合研究所の皆さま、特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センターの皆さま、厚生労働省公認心理師制度推進室の皆さまにも深く感謝申し上げます。

公認心理師をとりまく環境やメンタルヘルスにかかわる社会課題は、時々刻々と変化しています。これからも、講習会がアップデートされ、公認心理師全体のさらなる成熟がはかられていくことを、そして、その一端を先生方と一緒に担っていただけることを願っています。

今回の講習会で生まれたたくさんのつながりと思いが、この先も続いていきますように。

令和7年(2025年)3月

国立精神・神経医療研究センター病院 臨床心理部 事業担当者一同



*CHAPTER*

---

# 參考資料

CERTIFIED PUBLIC PSYCHOLOGIST

〈参考資料〉

段階別到達目標整理表

1 公認心理師としての態度		
1-1 公認心理師としての倫理性を理解し実践する		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
1-1-1 公認心理師の職責及び倫理を知る a. 公認心理師の役割を知る b. 公認心理師の法的義務と専門職としての倫理を知る c. 基本的な人権意識を身に付ける d. 個人情報の保護と情報共有の重要性を知る e. 中立的立場を保持することの重要性を知る	1-1-1 公認心理師の職責及び倫理を体験的に理解する a. 公認心理師の役割を理解する b. 公認心理師の法的義務を理解し専門職としての倫理を身に付ける c. 人権意識を持つことの重要性を理解し、要支援者の立場に立つことができる d. 個人情報の保護と情報共有の重要性を実践を通じて理解する e. 中立的な立場を保持することの重要性を実践を通じて理解する	1-1-1 公認心理師の職責と倫理を理解しその姿勢を持って実践する a. 公認心理師の法的義務を理解し職業倫理を身に付け実践する b. 人権意識をもって要支援者の立場に立ち、その方の安全を最優先し必要に応じて命を守る行動をとれる c. 守秘義務を遵守し必要な情報を適切に共有する d. 利益相反を理解し中立的な立場を保持する
1-2 反省的実践を行い資質向上に努める		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
1-2-1 自己理解を深める意義と方法を理解する a. 自分自身を見つめ直す覚悟や時間を持つ b. 自己理解を深めるための方法(スーパービジョン等)を知る 1-2-2 自ら課題を見出し主体的に学ぶ姿勢を身に付ける a. 自分自身の疑問や違和感を察知し言語化して伝えることの重要性を理解する b. 自発的に質問したり学ぶ姿勢を身に付ける c. 状況に合わせて柔軟に学ぶ重要性を知る	1-2-1 自分自身のあり方を内省し自己理解を深める a. 自分自身の葛藤や課題の理解を深める b. 自分自身の葛藤や課題の背景にある自分自身の歴史を振り返り、そこから支援に活用できるリソースを見出す 1-2-2 反省的実践を深めるための方法を理解する a. 実習等における継続的なケースや面接を通じて反省的実践の実際を理解する b. 個人・グループスーパービジョンを受けその意義や目的を理解する 1-2-3 自ら課題を見出し主体的に学び課題を解決する姿勢を身に付ける a. 自分自身の疑問や違和感を敏感に察知し、言語化して伝える b. 自分自身が出来たこと・出来なかったことを自覚・反省する c. 自分自身が出来ないことをできるようにするために何が必要かを考える d. 困った時やわからない時に率直に好奇心をもって質問できる e. 自己学習・自己研鑽を続ける方法を身に付ける f. 状況に合わせて柔軟に学ぶことができる 1-2-4 セルフケアの重要性を理解しその方法を身に付ける a. 自分自身に適したセルフケアの方法や資源を理解する	1-2-1 自分自身のあり方を内省し自分自身を客観的に振り返ることができる a. 自分自身の未解決な課題や葛藤を客観的に振り返ることができる b. 自分自身のマイナスの感情を冷静に扱うことができる 1-2-2 反省的実践を深めることができる a. 個人・グループスーパービジョンを受ける b. 事例検討会に事例を提供する c. 公認心理師同士の議論の場に参加する 1-2-3 セルフケアを実践する a. セルフケアの方法や資源を複数持ち活用できる b. 公認心理師同士の横のつながりを作る
1-3 要支援者等との関係性を構築する		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
1-3-1 要支援者と向き合う基本姿勢を理解する a. 様々な人と関わるうえでの基本姿勢を理解する(相手に合わせる、相手に関心を持つ、劣う等) b. 要支援者が多様な価値観を持つことを理解する c. 要支援者のみでなく関係者や生活環境まで捉えることの重要性を知る 1-3-2 他職種の役割を知る a. 様々な分野・領域における他職種の役割を知る b. 他職種の業務を知る	1-3-1 要支援者と向き合う基本姿勢を身に付ける a. カウンセリングの基本的態度(受容・共感的理解・誠実さ等)を身に付ける b. 要支援者と関わる際に自分自身の中で起こる反応に落ち着いて対処できる c. 要支援者の前に支援者としてあり続けられる 1-3-2 具体的な支援場面において要支援者と接し、要支援者を多面的に理解する a. 実習等を通じて具体的な支援場面で要支援者と接する b. 要支援者を多面的・全体的に理解する c. 要支援者のみでなく関係者や生活環境まで捉えることの重要性を実践を通じて理解する 1-3-3 他職種を尊重する態度を身に付ける a. 他職種の役割や価値観、教育的背景を理解する b. 他職種の業務を理解する c. 実習等において他職種のスタッフとも交流を図れる	1-3-1 カウンセリングの基本的態度をもって実践する a. カウンセリングの基本的態度(受容・共感的理解・誠実さ等)で要支援者と接することができる b. 要支援者と同じ地平に立って傾聴ができる 1-3-2 要支援者の課題解決や成長に向けた対応ができる a. 本人の意思を適切に確認することができる b. 動機づけを促すことができる c. 必要に応じて適切に心理教育を行いながら関わりができる 1-3-3 複雑な課題があるケースにおいても要支援者と関係を作れる a. 複雑な課題(通常の方法では対応が困難等)があるケースにおいても要支援者と関係を作ることができる 1-3-4 組織の文化や他職種を尊重する a. 他職種の役割や価値観、教育的背景を理解して接することができる b. 所属している組織の文化を尊重する姿勢を持てる c. 関係する他職種に敬意をもって接することができる 1-3-5 関係者同士の利害対立を調整できる a. 関係者同士(組織と個人、組織と組織、個人と個人)の利害を調整することができる

〈参考資料〉

1-4 エビデンスに基づき実践する		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>1-4-1 心理学の基礎知識を身に付ける</p> <p>a. 心理学の基礎知識を幅広く身に付ける</p> <p>b. 心理支援に関する理論の概要を知る</p> <p>1-4-2 心理支援の有効性と妥当性をエビデンスや心理学理論の視点から理解する</p> <p>a. エビデンスに基づく実践の重要性を理解する</p> <p>b. データに基づいて実証的に考え根拠に基づいて説明する重要性を理解する</p> <p>c. 既知の理論や概念を批判的に見直す重要性を理解する</p>	<p>1-4-1 心理学の実践的知識を身に付ける</p> <p>a. 幅広く臨床心理学や心理支援の理論・方法を身に付ける</p> <p>b. 専門としたい分野・領域で求められる知識を身に付ける</p> <p>c. 代表的な心理支援の理論について、長所と短所を説明できる</p> <p>1-4-2 心理支援の有効性と妥当性をエビデンスや心理学理論の視点から理解し実践に適用できる</p> <p>a. データを用いて実証的に考え説明することができる</p> <p>b. 既知の理論や概念を批判的に見直す視点を持っている</p> <p>c. 主要な臨床症状への支援法として推奨される介入法についてのエビデンスや診断ガイドライン等を説明できる</p> <p>d. 心理支援の効果を客観的な指標を用いて評価する方法を学ぶ</p> <p>e. 実習等を通じて、心理実践を科学的・批判的に見直すことの実践を理解する</p>	<p>1-4-1 常に知識をアップデートして実践に結び付け専門職としての説明責任を果たすことができる</p> <p>a. 学会や研修会への参加や書籍・文献を通じて知識を得、その専門性をもとに実践する</p> <p>b. 現場や要支援者のニーズに即して学んだことを柔軟にカスタマイズできる</p> <p>c. 臨床実践のプランニングにおいて、関連する臨床試験のエビデンスや診断ガイドライン等を活用できる</p> <p>1-4-2 実践と研究を結び付けることができる</p> <p>a. 自らの心理実践の有効性について客観的な指標を用いて評価し、その結果を反省的に活用し、資質・技能の向上に活かすことができる</p>
2 公認心理師としての専門技能		
2-1 心理アセスメントを行い支援計画を作る		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>2-1-1 心理アセスメントの基本的知識を身に付ける</p> <p>a. 心理アセスメントの種類とその特徴及び限界の概要を知る</p> <p>b. 心理アセスメントに関する理論と方法の概要を知る</p> <p>c. 心理アセスメントに有用な情報とその把握方法の概要を知る</p> <p>d. 心理アセスメントの基本姿勢、倫理的配慮の概要を知る</p> <p>2-1-2 アセスメント結果を表現する文章能力を身に付ける</p> <p>a. 記録や検査所見、報告書を適切に作成するための文章能力を身に付ける</p> <p>b. 記録や検査所見、報告書に求められるポイントを知る</p>	<p>2-1-1 心理アセスメントの実践的方法を理解し身に付ける</p> <p>a. 心理アセスメントの種類とその特徴及び限界を説明できる</p> <p>b. 心理アセスメントに関する理論と方法を理解する</p> <p>c. 心理アセスメントに有用な情報とその把握方法を理解する</p> <p>d. 心理アセスメントの基本姿勢や倫理的配慮を身に付ける</p> <p>e. 心理アセスメントの手続き・段階を具体的に理解する</p> <p>2-1-2 実習等を通じて関与観察を身に付ける</p> <p>a. 関与観察に必要な基礎知識を身に付け説明できる</p> <p>b. 関与観察を実施する</p> <p>c. 関与しながら観察してラポールを形成する重要性を理解する</p> <p>2-1-3 実習等を通じて心理検査を身に付ける</p> <p>a. 心理検査に必要な正しい基礎知識を身に付け説明できる</p> <p>b. 心理検査を実施できる(例:知能検査、パーソナリティに関する諸検査、症状評価に関する諸検査)</p> <p>c. 要支援者の状況に応じて心理検査を組み合わせることを理解する</p> <p>d. 心理検査の結果を解釈することができる</p> <p>2-1-4 実習等を通じて面接法を身に付ける</p> <p>a. 初診・インテークに必要な正しい基礎知識を身に付け説明できる</p> <p>b. 面接をしながら見立て、見立てたものを伝え返ししながらアセスメントをする</p> <p>2-1-5 様々なアセスメント結果をふまえて適切な概念化・定式化を行い指導を受けながら支援計画を作成する</p> <p>a. 具体的な体験や支援を専門知識及び理論に基づき概念化し説明できる</p> <p>b. 適切に記録、報告、振り返り等を行う文章能力・表現能力を身に付ける</p> <p>c. 様々なアセスメントをふまえて包括的な解釈を行う重要性を理解する</p> <p>d. アセスメント結果をふまえて適切な支援計画を作成することの重要性を理解する</p> <p>e. アセスメント結果を相手に合わせてわかりやすく説明することの重要性を理解する</p>	<p>2-1-1 関与観察を活用できる</p> <p>a. 要支援者に関わりながら観察できる</p> <p>b. 現場の人間関係の力動を観察できる</p> <p>c. 観察結果を適切に記録できる</p> <p>2-1-2 心理検査を活用できる</p> <p>a. 要支援者に応じた適切な検査法を提案できる</p> <p>b. 複雑なテストバッテリーを提案できる</p> <p>c. 検査結果を適切に解釈し所見を書くことができる</p> <p>2-1-3 面接法を活用できる</p> <p>a. 適切な面接の構造を作れる</p> <p>b. 効果的な面接を実施できる</p> <p>c. 面接結果を適切に記録・報告できる</p> <p>2-1-4 組織のアセスメントができる</p> <p>a. 対象となる組織の部門間・部門内の力動を理解できる</p> <p>b. 2-1-5 包括的にアセスメントを行い適切な概念化・定式化に基づいた対応方針を提示できる</p> <p>c. 様々なアセスメントをふまえて包括的な解釈ができる</p> <p>d. アセスメント結果をふまえて適切な支援計画を作成・提案できる</p> <p>e. アセスメント結果を相手に合わせてわかりやすく説明することができる</p>

〈参考資料〉

2-2 心理支援・心理的介入を行う		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>2-2-1 心理支援の基本的知識を身に付ける</p> <p>a. 様々な心理療法の理論や方法を学びその共通点や相違点、限界等を体験的に理解する(例:クライアント中心療法に基づく傾聴、認知行動療法の技法、精神分析の治療構造の知識、家族療法の技法等)</p> <p>b. 訪問による支援や地域支援の重要性を知る</p> <p>c. 要支援者に最適な心理支援の手法を選択することの重要性を知る</p> <p>d. 要支援者のプライバシーに配慮することの重要性を知る</p>	<p>2-2-1 心理支援の実践的方法を理解し身に付ける</p> <p>a. 様々な心理療法の理論や方法を学びその共通点や相違点、限界等を体験的に理解する(例:クライアント中心療法に基づく傾聴、認知行動療法の技法、精神分析の治療構造の知識、家族療法の技法等)</p> <p>b. 訪問による支援や地域支援の重要性を理解する</p> <p>c. 要支援者に最適な心理支援の方法を選択することの重要性を理解する</p> <p>d. 要支援者のプライバシーに配慮することの重要性を理解する</p> <p>e. 合同面接の技術を身に付ける</p> <p>f. 指導を受けながら、インタークから継続面接実施までの流れを理解する</p> <p>2-2-2 集団プログラムの運営方法を身に付ける</p> <p>a. グループアプローチの理論や方法を理解する</p> <p>b. グループダイナミクスを活用した集団プログラムの運営方法を理解する</p> <p>c. 集団プログラムのファシリテーション方法を身に付ける</p> <p>2-2-3 ケースマネジメントの方法を身に付ける</p> <p>a. 複雑な関係性の中でのケースマネジメントの方法と重要性を理解する</p>	<p>2-2-1 心理支援を効果的に行う</p> <p>a. 専門分野・領域において採用される標準的な支援方法を理解している</p> <p>b. 要支援者に最適な心理支援の方法を根拠をもって選択し効果的に適用する</p> <p>c. 選択した支援方法について、その理論的意義やエビデンスをわかりやすく説明することができる</p> <p>d. 日常場面を活かした心理支援を行える</p> <p>e. 複雑な判断を要するケースや状況においても効果的に心理支援を行える</p> <p>2-2-2 集団療法を主導する</p> <p>a. 集団プログラムを主導し、必要に応じて他職種に役割を提案できる</p> <p>b. プログラムに必要な修正を施すことができる</p> <p>c. 新しい集団プログラムの導入を提案できる</p> <p>2-2-3 ケースマネジメントを担う</p> <p>a. 支援計画の立案・実行を費用対効果を意識してマネジメントできる</p> <p>b. 関係者との必要な調整・交渉ができる</p> <p>c. 連携する社会資源に関する知識があり、必要に応じてリファーできる</p> <p>d. 起こりうるリスクに気づき回避行動がとれる</p> <p>e. ケースの予後を見据えることができる</p> <p>f. 複雑な判断を要するケースや状況においても適切に対応できる</p> <p>g. 心理支援の効果を、時宜を見て検証できる</p>
2-3 関係者支援を行う		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>2-3-1 関係者支援の基本的知識を身に付ける</p> <p>a. 分野・領域ごとの関係者の概要を知る</p> <p>b. 家族や集団の関係性をアセスメントするための理論や方法を知る</p> <p>c. 家族や集団の関係者への支援を行うための理論や方法を知る</p>	<p>2-3-1 関係者支援の実践的方法を理解し身に付ける</p> <p>a. 分野・領域ごとの関係者を実習等を通じて理解する</p> <p>b. 家族や集団の関係性をアセスメントするための実践的方法を身に付ける</p> <p>c. 家族や集団の関係性への支援を行うための実践的方法を身に付ける</p> <p>d. 実際のコンサルテーションがどう行われているかを知る</p>	<p>2-3-1 アセスメントに基づき専門的なコンサルテーションを実施する</p> <p>a. 家族、地域社会、集団・組織のアセスメントを行い支援計画を作成できる</p> <p>b. 要支援者の家族・関係者・環境への支援を適切に実施できる</p>
2-4 心の健康教育を行う		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>2-4-1 心の健康教育の基本的知識を身に付ける</p> <p>a. 健康教育や健康増進に関する理論と方法の概要を知る</p> <p>b. 適切な健康情報の探索方法を知る</p> <p>c. 心の健康教育の実践的方法を知る</p> <p>d. 一般の方にわかりやすい資料作成の重要性を知る</p>	<p>2-4-1 心の健康教育の実践的方法を理解し身に付ける</p> <p>a. 健康教育や健康増進に関する理論と方法を理解する</p> <p>b. 適切な健康情報を探索できる</p> <p>c. 心の健康教育の実践的方法を身に付ける</p> <p>d. 一般の方にもわかりやすい資料の作成方法を身に付ける</p>	<p>2-4-1 心の健康教育を自ら実践し、企画運営することができる</p> <p>a. 地域や社会、組織のニーズに即して心の健康教育を企画・提案できる</p> <p>b. 一般の方にわかりやすい心の健康教育資料を作成できる</p> <p>c. 一般の方にわかりやすい心の健康教育を自ら実践できる</p> <p>d. 心の健康教育について適切な運営ができる</p>

〈参考資料〉

3 組織性と学際性		
3-1 組織における役割を遂行する		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>3-1-1 社会常識・マナーを身に付ける</p> <p>a. 一般的なコミュニケーション能力を身に付ける</p> <p>b. 基本的な社会常識やマナー(挨拶、身だしなみ、立ち居振る舞い、報連相等)を身に付ける</p> <p>c. 要支援者や職員に対する礼節を身に付ける</p> <p>3-1-2 様々な分野・領域の臨床現場と業務関連知識を知る</p> <p>a. 各分野・領域の公認心理師の活動内容を知る</p> <p>b. 要支援者や関係者の臨床現場における姿を知る</p> <p>c. 各分野・領域における法制度の概要を理解する</p> <p>d. 法令や組織の内規に合わせた記録の取り扱いの必要性を知る</p>	<p>3-1-1 社会常識・マナーをふまえた行動をとれる</p> <p>a. 社会人としての常識やマナーを身に付け実践できる</p> <p>b. 各分野・領域の施設で特に求められる基本的マナーを知る(例:医療施設での感染対策)</p> <p>c. 労働者としての意識を身に付ける(例:自分の給与が発生する仕組みや背景制度を知る)</p> <p>d. 要支援者や職員に対する礼節をわきまえた態度・行動をとれる</p> <p>3-1-2 様々な分野・領域の臨床現場と業務関連知識の理解を深める</p> <p>a. 様々な分野・領域の現場を見聞きし理解を深める</p> <p>b. 現場の公認心理師の働く姿を見て自身のキャリアをイメージする</p> <p>c. 各分野・領域における法制度を理解する</p> <p>d. 法令や組織の実状に合わせた記録の取り扱い方法を知る</p>	<p>3-1-1 社会常識・マナーを指導できる</p> <p>a. 社会人としての常識やマナーをもって行動する</p> <p>b. 社会人としての常識やマナーについて後輩を指導する</p> <p>3-1-2 分野・領域特有の業務知識を身に付けている</p> <p>a. 専門とする分野・領域と関連した心理社会的な動向や課題を把握している</p> <p>b. 専門とする分野・領域固有の法制度を理解し実践する</p> <p>c. 関連する分野・領域の法制度を理解し実践する</p> <p>d. 法令や組織の実情に合わせて記録を取り扱い、後輩を指導する</p> <p>3-1-3 組織内での責任を果たし必要に応じて新たな業務を生み出す</p> <p>a. 組織の経営方針を理解し所属セクションの現状(機能している部分としていない部分)を把握している</p> <p>b. 所属セクションの心理職が実施すべき業務を中長期的に計画する</p> <p>c. 所属セクションの多職種チームをまとめ、その業務に責任を持つ</p> <p>d. 必要に応じて組織内のメンタルヘルスについて関与する</p> <p>e. 組織全体に心理職の活動を周知・広報する</p> <p>3-1-4 所属組織の地域・社会における役割を理解する</p> <p>a. 所属組織が地域社会で期待されている役割を理解する</p>
3-2 連携・協働による支援体制を作る		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>3-2-1 多職種連携の基本的知識を身に付ける</p> <p>a. 多職種連携の必要性と意義を理解する</p> <p>b. 様々な分野・領域において連携する他職種の役割や業務を知る</p> <p>c. 多職種連携における公認心理師の役割を理解する</p>	<p>3-2-1 実習等を通じて多職種連携の具体的なノウハウを体験的に学ぶ</p> <p>a. 他職種から信頼を得る重要性と方法を理解する</p> <p>b. 多職種チームにおける関係者の役割分担と公認心理師の役割を理解する</p> <p>c. 一連の業務において様々な職種がどのように関わるかを知っている</p> <p>d. ケース担当を通じて、必要な機関へつなぐ経験をし、連携の基礎を知る</p> <p>e. 円滑な連携のために必要とされる具体的なノウハウを学ぶ</p> <p>3-2-2 他職種に公認心理師の役割を説明できる</p> <p>a. 他職種に公認心理師の専門業務を説明できる言語能力を身に付ける</p> <p>b. 多職種連携の中での公認心理師の役割や特徴、強みに気がつく</p> <p>c. 他職種に心理職の仕事の説明ができる</p> <p>d. 他職種にもわかりやすく記録を取れる</p>	<p>3-2-1 他職種と良好な関係を築き多職種チームに貢献する</p> <p>a. 専門職としてのアイデンティティを確立しながら、職場のスタッフとしての信頼を得る</p> <p>b. ケースに応じて適切な関係者・関係機関との連携を提案・調整できる</p> <p>c. 多職種チームのマネジメントに関与する(時間軸を意識した業務の洗い出しと役割分担等)</p> <p>3-2-2 他職種に対して共通言語でわかりやすく伝えられる</p> <p>a. 公認心理師の役割と意義を伝え理解を得られる</p> <p>b. 公認心理師としての見解を、本質を曲げることなく共通言語で伝えられる</p> <p>c. 連携機関や他職種の立場をふまえ必要な情報を伝えられる</p>
4 教育・研究能力		
4-1 後進を育成する(指導とスーパーバイズ)		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>4-1-1 公認心理師の養成の概要を知る</p> <p>a. 養成課程における学部教育の位置づけを知る</p> <p>b. 学部生に求められる到達目標を知る</p>	<p>4-1-1 公認心理師養成の実践的方法を理解する</p> <p>a. 養成課程における大学院教育の位置づけを理解する</p> <p>b. 大学院生に求められる到達目標を知る</p> <p>c. 実習等を通じて公認心理師養成の実践的方法を理解する</p>	<p>4-1-1 後輩の育成・指導に関与する</p> <p>a. 後輩公認心理師の業務についてスーパービジョンを担う</p> <p>b. 後輩公認心理師の育成・指導に関与する</p> <p>4-1-2 学生の実習(心理実習・心理実践実習)に関与する</p> <p>a. 公認心理師養成課程における実習演習の位置づけを理解している</p> <p>b. 実習の企画・運営に関与する</p> <p>c. 実習の実施・管理体制の整備に関与する</p> <p>d. 学生の学習支援に求められる技能・姿勢を理解している</p>
4-2 研究活動に関与する		
学部段階	大学院段階	就職後5年目の段階
<p>4-2-1 研究方法の基本を知る</p> <p>a. 研究作法の基礎を学ぶ</p> <p>b. 研究手法(統計分析手法、実験手法等)を知る</p>	<p>4-2-1 研究方法の基本を身に付ける</p> <p>a. 研究方法(研究計画の立案、実査、統計解析スキル等)を理解している</p> <p>b. 特定の心理支援の方法に関するエビデンスを構築するための臨床試験の方法を学ぶ</p> <p>c. 自分の研究を発展させる</p> <p>4-2-2 正しく調べる方法を身に付ける</p> <p>a. 必要に応じて、適切な文献や資料を調べる</p> <p>b. 研究論文を読み、内容を理解する</p>	<p>4-2-1 臨床研究を実践する</p> <p>a. 臨床現場での経験から仮説を設定し研究を行い臨床心理学におけるエビデンス構築に貢献する</p>



公認心理師

実習演習担当教員及び  
実習指導者養成講習会

令和6年度厚生労働省事業  
公認心理師実習演習担当教員及び  
実習指導者養成講習会

2024  
レポート



2025年3月

国立精神・神経医療研究センター病院 臨床心理部

CERTIFIED PUBLIC PSYCHOLOGIST